

第56回藤沢市地産地消推進協議会及び
令和6年度第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会 議事録

1 開 会

竹中補佐

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第56回藤沢市地産地消推進協議会を開催させていただきます。

本日司会を務めます農業水産課の竹中と申します。
よろしくお願いいたします。

次に、会議中のご発言についてでございますが、挙手をしていただき、卓上マイクを使って名前を名乗っていただくからご発言くださいますようお願いいたします。本日の会議の記録を作成する関係上、発言内容を録音させていただいておりますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

本日の会議につきましては、19名の協議会委員の内、13名の方が出席しております。藤沢市地産地消推進協議会規則第5条に規定する会議成立要件の過半数を超え、会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。

また、本日ご都合により欠席の方がございますのでご報告いたします。

- ・藤沢市農業経営士協議会の加藤委員
 - ・わいわい市藤沢店の松井委員
 - ・江の島片瀬漁業協同組合の北村委員
 - ・湘南漁業協同組合の葉山委員
 - ・藤沢市商店会連合会の青木委員
 - ・横浜丸中青果株式会社 湘南支社の山田委員
- となります。

次に、本日の議題に入ります前に、まずお手元の資料の確認をさせていただきます。

次第。裏面が名簿となっております。

【資料1】第5期「藤沢市地産地消推進計画」事業実績報告書

【資料2】令和5年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業計画（最終報告）

【資料3-1~2】令和5年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支決算書

【資料4】通帳（写）

【資料5】監査報告

【資料6】令和6年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業計画（案）

【資料7-1～2】令和6年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支予算書（案）

となります。なお、机の上には閲覧用として、第5期藤沢市地産地消推進計画を置かせていただいております。

資料について不足等ございませんでしょうか。

次第の裏面には、出欠席の回答とあわせてお伺いした、実行委員会の所属部会について、記載されておりますのでご確認をお願いいたします。

本協議会は年度当初と年度末の2回開催を予定しております。年度途中には必要に応じて、部会を招集することいたします。

本日の会議につきましては、すべての議題を公開としておりますが、傍聴希望者はありませんでした。

2 委嘱状の交付

竹中補佐

それでは、この度、藤沢市地産地消推進協議会の委員としてご就任いただく皆様に、経済部長から委嘱状を交付させていただきたいと存じます。

それでは、お名前を読み上げさせていただきますので、どうぞその場でご起立をお願いいたします。

（委 嘱 式）

川井 裕之（かわい ひろゆき）様

安藤 好幸（あんどう よしゆき）様

松長 由美絵（まつなが ゆみえ）様

それでは、饗庭経済部長からご挨拶申し上げます。

饗庭部長

改めまして皆さんこんにちは。

経済部長の饗庭と申しますよろしく願いいたします。本日はご多用の中、お集まりいただきましてありがとうございます。

本市の地産地消の推進につきましては、2009年に条例を制定いたしまして以降、都市農業の特性を活かしまして、生産者と消費者を結びつける施策に取り組んでまいりました。

一方、農業の憲法とも言われる食料農業農村基本法が制定されてから四半世紀ぶりに改正されまして、食料安全保障や生産費を考慮した価格形成や環境負荷低減などが新たな理念に掲げられました。

漁業におきましても、昨年漁業漁港漁場整備法が改正されまして、海業の推進が位置づけられるなど、農水産業の大きな点転機を迎えていると感じております。

そのような中で、藤沢産農水産物をより身近なものとして認識し、消費できる環境作りや、食の安全と安心を高め、本市の農水産業の維持発展に繋げてまいりたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、様々な角度からのご意見をいただきまして、今後の地産地消の推進に反映をさせてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

竹中補佐

ここからの進行につきましては、立石会長お願いいたします。

3 議 題

立石会長

会長を仰せつかっております日本大学の立石と申します。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

まずはお忙しいところ本日はお集まりいただきまして、ありがとうございます。私もまだ2期目でして、まだまだサポートがたくさん必要な部分があるかと思っております。今日二つの委員会が開かれまして一つ目の方では、地産地消推進計画の事業実績の報告が行われます。

もう一つの実行委員会の方では、この5年度に行われた計画の最終報告と、また6年度の計画案についてご審議いただきたいと思っております。できるだけスムーズな議事進行にご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

では早速ですが議題の一つ目になります藤沢市地産地消推進計画に基づく事業の進捗状況についてということで資料の1に基づきまして事務局の方から説明の方よろしくお願いいたします。

河原崎

私の方からA3の資料1と、あとは皆様の正面にある画面を使って、令和5年度の地産地消計画に基づく事業の進捗状況についてご報告をさせていただきます。

まず資料の1には、計画に位置づけられた具体的な取り組みごとに、令和5年度に取り組んだ実績を右側の列に記載させていただいております。多くの取り組みがありましたので、ここでは地産地消計画で設定している目標値の達成状況を中心にご報告をさせていただきます。

まず画面の方をご覧くださいいただければと思います。

重点的に取り組む施策の一つ目「藤沢ブランドの創出」では、かながわブランドへの登録件数20件を計画の目標としておりました。しかし、令和5年度については藤沢市では新規の登録はありませんでしたので、目標は達成できなかったという状況になります。しかしながら、こちらにも記載させていただいた通り、例えば藤沢・茅ヶ崎・寒川の二市一町の農家の方が「湘南黒豆」という名称で枝豆の共同出荷に取り組んでいらっしゃるにしまして、今まさに出荷の時期を迎えていてなかなか直売所に行っても買えない状況と伺っています。こちらは電子レンジで加熱できる包装がされていたりとか、統一のステッカーを貼ったりとかというところでブランド化を進めているということで、こういった取り組みがございました。

それから例として挙げさせていただいたのが、神奈川県農業技術センターが育成した「湘南ポモロン」というトマトの一つで「湘南ポモロンショコラ」と呼ばれる、画面の下の写真の一番左側のものが現物なんですけども。茶色の珍しいトマトの栽培も昨年からできるようになりまして、藤沢市においても生産が始まるといった形でブランド創出に向けたそういった取り組みもございました。

それから参考として県内では令和5年度にこちらに記載の通り「小田原あんこう」「はだの葉ニンニク」「秦野産青パイヤ」「西湘ニンニク」の4品目が新たにかながわブランドに登録されているという状況になっています。

本市におきましても、先ほどご報告した枝豆やトマトなどが、ブランド化のポテンシャルがある農産物かと思っておりますので、このような他市の事例を参考にしながらですね、JAの皆様や、漁協の皆様、生産者グループの方と今後のブランド登録について、継続して協議を行ってまいりたいと思っております。藤沢ブランドの創出に関わる目標の達成状況については以上になります。

続きまして、重点的に取り組む施策の二つ目の給食での地元の農産物の供給強化につきましましては、一つ目の目標として、藤沢産米の使用を目標としておりました。

こちらにつきましましては、小中学校、保育園、いずれも令和8年度に目標としていた使用数量を昨年度の段階で、全て上回る結果になっておりまして、目標を達成することができております。今後も使用数量を維持していきたいと考えております。

こちらの項目では、二つ目の目標指標がございまして、給食での藤沢産農産物の使用割合を目標指標にしております。

令和5年度の目標は19.7%を目標にしておりましたが、実績値としては15.3%となりました。目標を達成することはできなかつたんですけども、令和4年度と比較して3ポイントほどの数値はよくなっているという状況になります。ポイントが上がった要因といたしましては、地産地消モデル校というものを位置づけて取り組みを進めているんですけども、モデル校の取り組みがそれ以外の学校にも広がってきている結果と分析しております。具体的には、モデル校の栄養士さんが人事異動の際に、生産者との繋がりは継続していただいて、異動先の学校でも、その繋がりの中で地域の農家の方から農産物を供給できる体制などが構築できていると聞いております。今後もこのような交流が続くように、生産者の方や栄養士さんとヒアリングを継続して、使用割合が少しでも増えていくように取り組みを進めていきたいと考えております。

それから重点的に取り組む政策の三つ目、普及啓発や食育政策との連携強化については、藤沢産ロゴマークの認知度を目標値として設定しております。毎年3000人の市民を対象にロゴマークの認知度を調査しております。令和5年度は43.7%の方に認知いただいているという結果になりまして、目標を上回ることができました。

こちらについてはロゴマークシールを作成して、生産者の方に出荷する際に貼っていただいたりというようなことをしておりますので、今後もそのように取り組みを継続して美味しく新鮮で安全な藤沢産農水産物の目印として普及に務めてまいりたいと考えております。

目標値の達成状況については以上になります。

それから本日ですね協議会に出席いただいている藤沢市畜産会さんの方では、6年ぶりに藤沢畜産ふれあい祭りを開催したというような実績を資料1に記載させていただいたりとか、それから四つ葉会様の方からは「親子で料理を楽しもう！」など食生活改善推進講座を開催したという取り組み実績もご報告いただいております。

それから目標値は設定しておりませんが、特徴的な事業ということで一つご報告をしておきたいのが、毎年実施している地産地消アンケートの中で、設問で「より地産地消を進めるためにあなたが効果的だと思う取り組みを選んでください」という設問がございます。その中で毎回、回答割合が多いのが「直売所を増やす」ですとか「スーパーなどの量販店で藤沢産の水産物を販売する」を選択される市民の方が多い状況になります。

これに関連する取り組みといたしまして、昨年度は市内の

商業施設や生産者の方のご協力のもと、イトーヨーカ堂の湘南台店で農家の方に店舗に来ていただいて試験販売をするという取り組みを行ったりとか、それから藤沢駅南口の小田急湘南GATEさんの入口付近のスペースを直売できる場所として提供していただいたりとか、あとは弥勒寺にあるミロクジーナという商業施設の一部を開放していただいたりとか、あとは湘南駅地下のアートスクエアと生産者が繋がって定期的に農産物の直売が行われるようになっております。

今年度からもですね、7枚目写真の下側にあるんですけども、公共施設の旧桔梗屋という施設で定期的に直売を行うことの協議などを進めておりますので、今後このような機会を増やして市民の方が手に取る機会を少しでも増やしていきたいなというふうに考えております。

令和5年度の取り組み実績の報告は以上になります。

立石会長

ただいま、事務局から説明がありました、藤沢市畜産会では、久しぶりに「畜産ふれあいまつり」などを開催されたそうですが、飼料高騰等でご苦労されている中での開催となったと思いますが、久しぶりに開催してみてものご感想などあれば、和田委員からご発言いただけますか？

和田委員

5年度はですね、6年ぶりにふれあいまつりを開催することができました。コロナ等の影響でずっと出来なかったんですけども久しぶりの開催ということで、来場者の方も非常にたくさん来ていただきまして当初用意しておいた、肉の量が足りなくて追加追加で肉の方を手配して販売していたという盛況な状況で、「これを待ってたんだよ」という声も聞けて大変嬉しく、非常に有意義で良いふれあいまつりになったんではないかと思えます。

現状この畜産業なんですけども。飼料の高騰、電力、機具機材全てのものが値上がりしてまして、経営を続けるのには非常に厳しい状況ではあるんですけども、畜産会の養豚・養鶏・肉牛・酪農の人たちみんなで知恵を出し合って協力しながら今後もこのまま続けていきたいと思えますので一つよろしく願いいたします。

立石会長

一次産業、厳しい状況に置かれていると思うので、ぜひとも、皆さん方よろしく願いいたします。

四ツ葉会では、食生活改善推進講座を開催されたとのことでした。昨年度は、新型コロナウイルスが5類に移行し、調理実習などのイベントも復活したことと思えますが、開催し

ての感想や今年度の取り組み予定などあれば、青柳委員いかがでしょうか？

青柳委員

四ツ葉会では「美味しく楽しく健康に」を活動目標としまして、市内の公民館を拠点として食を通した健康づくりを推進しています。市内の各13公民館で担当グループがありまして、第3次食育推進計画に沿ったテーマを決めて講座を実施しました。

コロナの間は、飲食できなかつたのでデモンストレーションだけとか、一口だけ試食ってということもありましたけれども、昨年度はみんなで作って1食分を先生と一緒に食べるということが可能になりまして、受講者の方も一緒に食べられるので楽しかったと声があり、私達としても今年もやっていこうかなと計画しておりますので、このまま続けていきたいと思っております。

立石会長

他に各機関で追加の実績報告やご質問などがございましたらお願いします。

神崎副会長

地産地消のマークのシールがあるでしょ。あれ私たちは、同じのを使ってるんですが、色が違うやつがあるのを知らなかったんですが、もしも緑が欲しいという場合、いただけるもんなんでしょうか？

河原崎

ロゴマークシールについてはまず大きさが大きいものと小さいものということで分かれてます。小さいものはそのパネル左側にたくさん貼ってあるシールが小さい方のシールです。こちらについては画面にある4色展開で作成しておりますのでご希望に応じて、交付することができます。特に葉物とかだとそれに緑を貼るより少し違うものを貼った方がいいとか、皆さんと工夫されております。大きいシールについてはオレンジ色しかないっていうような状況になりますので、ご活用いただければと思います。

立石会長

小さいのは4色あるそうです。
他にございますでしょうか？報告につきましてはこれで終了したいと思います。そしたら二つ目、議題2でその他になりますが何かございますでしょうか？特段ないようでしたら、これをもちまして藤沢市の地産地消推進協議会の本日予定していた議題の方は全て終了しましたので、一旦進行を事務局にお返しいたしたいと思います。

竹中補佐

ありがとうございました。

これをもちまして第56回藤沢市地産地消推進協議会を閉会とさせていただきます。

令和6年度第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会

1 開会

竹中補佐

引き続き、令和6年度第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会に移らせていただきます。

ここからの進行につきましては、立石委員長お願いいたします。

2 議題

立石委員長

それでは、「議題（1）令和5年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業計画最終報告について」事務局から説明をお願いします。

河原崎

初めて参加された方はちょっとわかりにくいかなと思うんですけども、地産地消事業を実施する組織として先ほどまで開催されていた協議会の委員の中から構成する実行委員会というものがございまして、様々な具体的な事業に取り組んでおりますので、実行委員会としてまず令和5年度に取り組んだ事業報告、その後に今年度どのような取り組みをしていくかというところをご説明させていただきます。

資料の2のパワーポイントのスライドです。画面に同じものが出ますので、見やすい方をご覧くださいと思います。

令和5年度の実行委員会事業の実施状況につきましては、1月に中間報告をさせていただいておりますので、1月以降の取り組み実績を中心にご説明をさせていただきます。

まず一つ目が新たな1次製品の創出に向けた試作の支援というのを予定しておりましたが、先ほどご説明したとおり令和5年度については神奈川ブランドへの登録はございませんで、特段こちらの事業については予算の執行は無かったという形になっています。

続いて右上の数字でスライド3番ですね、未利用魚を活用した加工品の開発支援や学校給食での活用検討につきましては、昨年度公立小学校9校で「おでん」ですとか、「地魚だんごの甘酢餡」といったメニューで、給食として提供することができました。

こちらの取り組みの簡単な流れをご説明しますと、まず江の島沖の定置網にかかったブリの幼魚ワカシと言われるものです。こちらまだ魚体が小さいもので、歩留まりがかなり悪いのでほとんど一般の市場には流通しない未利用魚となっております。こちらを小田原の加工会社ですり身に一次加工します。その後、かまぼこで有名な籠清さんに持ち込みをして、味付けとかですね、団子状の形に形成するというをお願いしました。それをまた一次加工を行った会社に戻しまして、学校給食として提供される直前まで保管をし、学校ごとに必要な食数は異なりますので、その仕分けをお願いしました。最終的に給食提供の直前に市内の卸売会社さんを通じて各学校の調理室に納品されるというような流れで行ったものになります。このような加工については、骨の問題であるとか1食あたりの規格の問題とか保管をどのようにするかとか、そのような様々な課題がある中で総合的に検討した結果このような提供の形になりました。

給食として提供した後に、各学校の栄養士さんにアンケート調査を実施しておりまして、全ての学校の栄養士さんから今後も継続して使用できるというような回答をいただいていますし、残食率も他の食材比較として少なかったとか、あとは給食の提供に合わせて給食日よりなどで、水産資源のことについて食育の観点で児童生徒並びに各家庭に周知をしたというようなことをご報告いただいたという状況になっています。

続いての取り組みが藤沢産の農水産物を利用した加工品の開発支援で、こちらについては皆さんご存知のことも多いかと思うんですけども、藤沢市で酒米を作って日本酒を作るという取り組みを昨年度行いました。

1月以降もですね、2月13日には酒米の生産者の方と日本酒を仕込んでいただいた熊澤酒造の杜氏の方を湘南大庭市民センターにお招きしまして、「市内産の米で日本酒を作る。地元生産者たちが語る名酒藤田熊醸の誕生まで」と題しまして、市民向けの講座を開催してですね、取り組みの趣旨であるとか苦労話を試飲なども交えながら、行ったりですとか、あとは藤沢駅北口のサンパール広場で行われている元気バザールセレクトマルシェにおいて直売会を行うなど様々な機会が発売以降も周知をしてきたという取り組みがありました。

それから次の5番目のスライド、特定給食施設の藤沢産の利用促進については、前回から特段大きな変更はなく、60トン使用を目標としていたところ、それを上回る61トンを学校であるとか、民間の事業所で使うことができたという状況に

なっています。

6番目のスライド、小学校でのバター作り体験や保育園児との交流事業についても、前回から特に変更はありません。

地産地消イベントの実施についても変更なしで進ませていただきます。

花育イベントPRの方においても前回から変更がないので、進ませていただきます。

9番目のスライド食育講座について、前回の実行委員会でご説明をしていなかったんですけども。津久井在来大豆の栽培から収穫までを体験していただくという講座を実施しまして、調理実習なども行いまして味噌作りや豆腐作りというようなことをやって、7月から12月までの全7回の講座に22名の方にご参加いただいた取り組みがありまして。材料に係る経費等の一部を実行委員会の予算で負担させていただきましたので、こちらでご報告をさせていただきます。

10番目のスライドのロゴマークシールとSNSを活用した認知度向上については変更がありません。

11番目のスライドですね。プロモーションビデオを作成して、藤沢産PRする活動については前回時点で動画の作成というのは、できてなかったんですけども、その後に藤沢産利用推進店、農水産物を積極的に利用していただいている飲食店の撮影をさせていただいて、動画を作成しました。

この場で流したいと思いますので、ご覧いただければと思います。

実際撮影してみて、生産者の方と飲食店の方が直接結びついていて、野菜のやり取りがあったりとか、レストランの方も使う食材を畑まで直接見に行っただわって使っているとか、あとはサラダのメニューは通年で出してるんだけども、旬のものを使うのでそれに入っている具材が季節ごとによって違うんですよ、みたいなところが直接お話を伺って、動画のテロップなどでも補足させていただいて、こういったお店を知っていただくっていうところで、たくさんの方に見ただけの動画になればと思っています。

それ以外にも事務局で行っている、おいしい藤沢産のインスタグラムの方で写真の他、動画などで伝えやすいものについては、動画を作成して投稿などもさせていただいたというところになります。

最後ですね、本日皆様の机の上にも配布させていただいたんですけども、食べ歩きマップを、内容を更新させていただきました。藤沢駅周辺と片瀬江ノ島・鵜沼海岸駅周辺の2種類を日本語版と英語版に分けて作成をしました。こちらにつ

いては鉄道の駅であるとか、あとは宿泊施設とか商業施設に配架をさせていただいているというところになります。

以上が令和5年度の主に1月以降に行った地産地消推進事業実行委員会が事業になります。

最後にですね収支決算が、資料の3-1と2で資料をお配りしております。収入については予算額169万3932円に対して決算額169万6631円執行率100.1%。支出の部については予算額169万3932円に対し決算額163万2462円執行率96.3%となっております。こちらの収支の差額6万4169円については、次年度への繰り越しとさせていただきました。

資料4に参考として出入金の履歴の通帳の写しを資料として配布しています。こちらの収支決算の内容につきましては、本日ご欠席なんですけども、実行委員会監事の山田委員に監査をいただきまして、適正であるというところを資料5の通りご確認いただいたという結果になっております。

資料1についての説明は以上になります。

立石委員長

ただいま、事務局から説明がありました。ご質問やご意見などがございましたらお願いします。

神崎副委員長

ちょっと課が違うかもしれないんですが、ふるさと納税の返礼品などを活用したことを、市でやっていますよね。どういう関わり合いもしているか、ちょっと説明してもらえないですかね。

河原崎

ふるさと納税については藤沢市においても市税の流出問題等がありまして魅力的な返礼品をラインナップするというのが課題かと認識しています。市役所の部署としては財務部財政課というところが担当課となっております。農業水産課の関係としては、一次生産者の方たちに対して返礼品の提供のご相談などを間に入れてさせていただいているというようところになります。例えば湘南青果さんが出荷している季節の野菜セットであるとか、あとは藤沢産のはるみ、それから先ほどご報告した藤沢産酒米で造った日本酒もふるさと納税の返礼品になってます。

それからブランドの豚肉あとは湘南ハマグリとかそんなところもラインナップになっていたかなと思っています。現状そのようなものがありますし、財務部担当課は、さらに魅力的なものとか、これからブランド化するものとか、加工品として開発したのも加えることができないかとかいうようなところの視点を持っています。

松長委員

今のお話でふるさと納税は財政課がやっていることで農水としてもご協力してるということで、藤沢ブランドの認知なども進めているというふうにこの資料の中にはあるので、今いただいたお話をここに載せてくるというふうなことにはなるのでしょうか、ならないのでしょうか。

及川課長

実際ですね、ふるさと納税の返礼品の関係で財政課からの相談を受けていて、昨年度は果樹をどうしても入れたいということだったので、果樹の生産者をお願いをしておりますね、返礼品を出していただくことになりました。これからについては、それをさらに拡大したいということで、果樹部の総会等にもですね、財務部と一緒に行って、非常に多くの生産者の方にご協力いただいているような状況もございますので、次年度以降ですね、その実績のところ、この地産地消の実行委員会の予算を使っているわけではないので、協議会の方でご報告できる内容がありましたら、ふるさと納税についてもご報告させていただければと思っております。

立石委員長

松長委員からもお話あったようにブランド化という意味では、この取り組みの中に入れてもいいのかなというふうに思っていますので、そういった部分で注目された返礼品ですとか、そういったことをご紹介できればと思いますので、よろしくお願いたします。

青木委員

実行委員の青木と申します。一点ですねスライドの5番目です。

藤沢産米というところでお尋ねしたいんですけども。私この間ふじさわ産業フェスタに行かせていただいて、そこで初めてですけど、「はるみ」を食べて非常に美味しいなと感じてですね。それでこのスライド見ると「はるみ」という名前が無いことに、何か理由があるのでしょうか。

そのときに業者さんと話したときに「はるみ」は収量がそんなに確保できないとか、そんな課題を聞いていてですね、その辺りの事情はあるのかどうかというところをお伺いしたいです。

及川課長

学校給食とそれ以外の法人にも提供している物なんですけれども、全て「はるみ」で提供させていただいております。今藤沢市内で生産されている米のですね、実際にどれだけ「はるみ」かっていうのは集計できてないですけれども、7

割以上はおそらく「はるみ」を作付されていると思います。

元々平塚市の全農のところで開発された品種なので、平塚が一番最初に作ってるような印象を持たれるんですけども実は試験的に生産する段階で、まだ「はるみ」という名前がつく前の段階から藤沢市内の生産者が作っておりますので、元祖「はるみ」と言ってもいいような状況ですので、もう少し「はるみ」についてのPRをさせていただければというふうに考えております。

立石委員長

ありがとうございました。

次に「議題（２）令和６年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業計画案について」事務局から説明をお願いします。

河原崎

そうしましたら改めて事務局から今年度こちらの実行委員会としてどのような事業に取り組んでいくかっていうところの計画案の説明をさせていただきます。

こちらの計画案作成に当たりましては、昨年度末の時点で委員でいらっしゃった皆様に意見照会をさせていただきました。ご回答いただきました委員の皆様ありがとうございました。その意見を踏まえた上で作成したものになります。全ての意見が全て集約できたわけではないんですがご了承いただければと思います。

それから皆様にご報告しておく必要があることとしては、こちらの実行委員会については、藤沢市からの負担金を持って予算として充てております。昨年度まで負担金が160万円だったんですけども、今年度については15万円増えまして、175万円の予算化をご承認いただきましたので、この予算を活用しまして取り組みをより強化していきたいというふうに考えております。具体的な取り組み内容について、スライドの2番目以降でご説明させていただきます。

基本的にはこれまでの取り組み内容を踏まえて継続して行ったりとかいうところが中心になりまして、前年度に引き続きまして新たな1次製品の取り組みなども藤沢市内でございましてそういった取り組みに対して支援を行うような体制というのは引き続き構築したいなというふうに考えております。予算額としては容器や包装類の支援として前年度と同額の10万円を予算としておりまして、こちらの項目では今年度については、かながわブランドでも登録を1件、目指していくというところを数値目標とさせていただきました。

続いて3枚目のスライドに関しましては、こちらも引き続

き未利用魚を活用した加工品の開発支援や、学校給食での活用検討を継続してまいりたいと考えております。前年度の取り組みの中で保管や仕分けなどの部分で課題があったかなということが取り組んでいる関係機関の中からお声がありました。それらを踏まえまして今年度については公立小学校特別支援学校全校36校で2万5000食分の給食提供をスキームを改善しながら目指していきたいというふうに思っております。こちらでは原材料費等の費用負担として20万円を予算として、挙げさせていただいて前年度から5万円増えたような形になります。こちらについては最終的にはですね、実行委員会からも支援がなくても、実施できるような体制が構築できるところことを念頭に置きながら、支援を継続して参りたいというふうに考えております。

続いて、藤沢産農産物を利用した加工品の開発支援というものも継続していきたいというふうに考えております。昨年度は日本酒だったんですけども、これはあくまで例なんです。現在藤沢市では、市内で発見された新品種のブドウ「メイヴ」でワインを作っているという動きがございます。こういった取り組みが具体化していった際には、販促用品とか、そういったものを支援して実行委員会としてもバックアップをしていきたいということで挙げさせていただいております。予算額については前年度の実績を踏まえまして、20万円から10万円としております。例えばワインが出来上がっていったときに商品化していく際にどうしてもラベルとか、そういったものも新たに作っていかなくてはならないと思いますので、そういったところに支出することを想定しての内容になります。

続きまして特定給食施設での藤沢産米の利用促進についても引き続き取り組みをしていきたいと思っております。需要がなくなってしまうと、藤沢の水田で水稻生産がされなくなり、耕作放棄等に伴いまして、水田が持つ様々な多面的な機能を喪失してしまうということになりますので、今後も継続して藤沢産米「はるみ」の販路開拓を継続していきたいと考えております。具体的には、特定給食施設の情報をもとに新米の時期に合わせて営業をかけていくようなことについて取り組みをしていきたいというふうに思っております。予算額は5万円となります。ご興味を持っていただいた給食施設にサンプルを提供するような費用として支出したいと思っております。

それから、小学校でのバター作り体験事業ややまゆりポーク生産協議会と連携した畜産の事業ですとか、あとは保育園

において生産者と交流する事業についても、今年度も継続して実施してまいりたいと考えておりまして、昨年度からバケツを使った水稻生産の授業を保育園で始めまして、非常に好評でしたので、こちらについては実施する保育園を、昨年度は地産地消のモデル園のまたの保育園1ヶ所のみだったんですけれども、今年度はそこから少し増やして、取り組みをしていきたいということで予算を4万円増やして10万円とさせていただきます。

続いて7番目のスライドになります。こちらについては意見照会の中で具体的に委員の中からご意見をいただいた内容になるんですけれども、オーガニック給食の提供に藤沢市としても、取り組んだらいかがでしょうかというようなご意見をいただいて、事業計画を作りました。オーガニック給食を提供することによって残食率の減少であるとか、給食の食材として活用される需要の創出によって、オーガニック野菜の産地が安定するとか、あとは食育の推進に繋がるとか様々な効果が期待される中で全国の自治体で取り組みが進んでいるものと認識しています。ただ、給食のオーガニック食材の利用については、価格であるとか、あとは数量の確保とか、その食材が給食食材として適切か活用できるものかとか、泥付きとかで手間が増えるんじゃないかとか、いろんな懸念が想定される中で、まずは学校1校1品目からでも取り組みを始めたいというところで、事業計画させていただきました。具体的には学校栄養士さんと地域の有機生産者の方とヒアリングの機会を設けて課題の洗い出しを行い、試験的に活用するにあたって必要な食材の費用などを実行委員会として負担して、まずは動き出すところをやってみたいなというふうに考えています。スライドの方でも写真を載せさせていただきましたけれども、既に合鴨米の給食など取り組みが進んでいる事例もありますので、今年度についてはそれに加えて、青果物を使っていきたいなというふうに考えております。

8番については様々な地産地消イベントを今年度も継続して行っていきたいと考えております。大きな変更点といたしましては、オーガニックマルシェの取り組みが継続できれば今年で3年目になりますので、出展されている生産者の方などからはこれが地域に定着していくようにもう少し間隔を狭く、定期的で開催してほしいというようなご要望をいただいておりますので、11月に開催して以降毎月開催していく定期的なイベントとなることを目標に今年度については取り組みをしていきたいと考えております。

続いて9番目のスライドがこちら例年と同じ内容になり

ますけども、花育体験イベントや花き等を購入して公共施設等でPRしていくということは継続したいと考えております。ただ花育体験事業については、例年冬にですね、市役所の広場の方で実施しているんですけども、より効果的な取り組みになるように、実施場所であるとか時期については、同じようにやるのではなく、少し見直しをしたいと考えております。

それから事務局からの発案で新規の事業として入れさせていただいたんですけども、緑育体験イベントというのを実行委員会事業としてやらせていただきたいなと思っています。緑育というのは、緑に親しみを持ってもらうために、緑の育ち方とか、あとは環境との関わりを体験してもらうというような事業のことを言いまして、これまで植木の品評会などが市内では開催されていたんですけども、より市民の方に植木生産を身近に感じてもらう機会を作りたいということで予算10万円で事業計画をさせていただきました。

続いてロゴマークシールとSNSを活用した認知度向上についても昨年度と同額の予算で継続して実施をしていきたいと思っています。

動画とプロモーションビデオの作成についても同様の内容で同額の予算で継続していきたいと考えております。

それから13番目がスライドの食べ歩きマップについても今年度も作成したいと思ってるんですけども、委員の方から作成に当たって、これまで地域別に作っていたところからメニュー別のマップにした方がより消費者の方のニーズに合ったマップになるんじゃないかというようなご意見をいただきまして、それを踏まえた内容で作成をしたいと思っています。具体的には、例えば湘南しらすをメニューとして提供しているお店の一覧とか地産地消とはちょっとずれてしまってもうかもしれませんが、やはり江の島という観光地を抱える藤沢市で、地元で採れたしらすを食べたいという考えの方は多くいらっしゃると思います。そういう方たちに手に取っていただけるようなマップをイメージしているものになります。それから例で挙げさせていただいたのは、藤沢のブランド豚を食べさせてくれるお店みたいなものもあってもいいのかなというふうに思っております。藤沢市の養豚っていうのは、神奈川県内でもトップクラスの飼養頭数を誇るほど盛んなものなんですけども意外とそこら辺は、市民の方もご存知なくて、なおかつ食べたことがある方っていうふうになると、またさらに少ないと思います。地産地消アンケートでも、「購入したことがある藤沢産農水産物は何ですか」とい

う質問に対してお肉って回答した人が22%ということで、かなり少ないのかなというふうに思っておりますので、そのようなマップがあってもいいのかなというふうに思っています。こちらはあくまで一例なんですけどもエリアではなくて、品目に着目した食べ歩きマップを作りたいと考えています。

それから事業計画としては最後になるんですけども、こちらから委員の方からご意見をいただいた内容になりまして、藻場保全について内容になります。全国的に磯焼けの問題っていうのは、課題になっているかと思えます。江の島周辺もその例外ではなくて、藻場の消失というのが課題になっています。現在藤沢市では食害生物、具体的には海藻を食べてしまうアイゴという魚を駆除する作業であるとか、あとは藻場保全に取り組む江の島フィッシャーメンズプロジェクトさんに対しての補助などを行っているところなんですけども、アワビとかサザエとかそういった水産動物の生育の場であったりとか、二酸化炭素の吸収源として藻場はとても大切なものになりますので、それを保全する取り組みを実行委員会としてもやっていきたいなということになります。具体的には神奈川県水産技術センターで通常3分の1の期間で、成熟する早熟カジメの培養と、それを活用した藻場の再生の研究に取り組んでいらっしゃるしまして、このことによって食べられる前に大きくしてしまおうというような内容になるんですけども、そういった最新の技術を活用しながら、神奈川県、漁協それから江の島フィッシャーメンズプロジェクトのような民間の団体の方と協力して、江の島においてもこのような技術を活用した藻場保全活動をやるにあたって実行委員会として支援をしていきたいというような形になります。おそらく種苗までは県から無償で提供するいただくことができますので、それを例えば投入するに当たって船を出してダイバーさんに出してもらって、種苗を投入するような作業になりますので、そういったところはどうしても人もお金もかかりますので、そんなところを支援していきたいというところをイメージしている事業内容になります。

事業の計画案は以上になります。予算については資料の7の1と2の方で記載させていただいた形になります。

それから最後に、意見照会で様々なご意見をいただいておりますので、事業計画の中で触れられない部分っていうのがありましたので、事務局としていくつか具体的に回答させていただきます。

まず新たな1次産品を創出することも大切なんだけども、

トマト・きゅうり・キャベツ・なし・ブドウなど、市内で多く生産されている農産物についても、今まで以上にアピールしていく必要があるんじゃないかというご意見をいただきました。

こちらについては、事務局としても同じ思いでいます。例えばきゅうりやなしやブドウなどは藤沢を代表する農産物ではあるんですけども、かながわブランドでは登録されてなかったりというようなことがありますので、そういったところも含めて、ブランド登録してアピールするとかいうことも地産地消を進める上で有効かと考えております。

それから2点目実際ブランドを進めるにあたってインパクトのある名称が必要だから「湘南藤沢野菜」という名称を使ったらいかがでしょうかというご意見をいただきました。現在、藤沢市には湘南野菜出荷推進協議会という協議会がございまして、こちらの画面の通り湘南野菜っていうのを商標登録して、統一の包装資材等活用して出荷していますので、このような既存のブランドをより一層周知するっていうようなことも有効かなというふうに考えています。

それから3点目市長の公約にですね、給食の無償化があったと思います。今後その機会を捉えて市内の生産物が供給強化できるように、生産者へのヒアリングなども積極的にやっていった方がいいんじゃないかというご意見をいただきました。こちらについては現在、地産地消モデル校が小学校で4校保育園で1園ありますけども、そちらでは生産者や学校の栄養士さんを交えて定期的に振り返り会議っていうのを開催しています。先ほどご報告したんですけども、生産者が直接学校に供給する体制っていうのは、モデル校以外にも、広がりを見せてますので、振り返り会議等を継続実施して、関係者の方からヒアリング等は継続していきたいというふうに考えています。

それから野菜や果樹の直売所の情報を簡単に検索できるようにしていただければですか。そんなご意見をいただいてまして、ご紹介したいのが、画面に実際のものお出しするんですけども、こちらは藤沢市のホームページになります農業と地産地消と進んでいくと、「藤沢産果物の直売所に行こう」というページがありまして、こちらに市内の果物の直売所マップが見えるようになっています。ただこちらでは詳細な場所がわかりませんので、下の方にスクロールしていきますと、藤沢キュンマップという地図情報の公開サイトがありまして、いろんな種類の地図情報がある中で、地産地消マップっていうのがあります。こちらを見ていただくとこのよう

に、いわゆるGoogleマップのような地図が広がりまして、市内の直売所果樹園、あとは藤沢産利用推進店の場所が地図情報として閲覧できるようになっていますので、それを拡大していくと具体的な果樹の直売所の場所が見えるようになっていて、ふじキュンのアイコンをクリックすると、果樹園の名前や住所や電話番号や取り扱っている果物の名前などが見えるようになっています。ただこういったご意見をいただくことは多分こういった検索方法があるってということが周知しきれていないのかなというふうに思いますので、そういった部分を含めて改善が必要かなというふうに考えております。

スライドの方に戻ります。それから湘南藤沢産のシールを復活していただきたいというご意見があったんですけど、先ほども話題に上がったロゴマークシールを作る前のシールになっていまして、今はこの画面に出ている4色の藤沢産ロゴマークでPRしてますのでこちらの取り組みを継続していきたいというふうに思います。

こちら最後のスライドになります。現在漁港の方で定期的にフィッシャーマンズマルシェを開催していただいて水産業のPRとしていただいています。それを踏まえまして北部の方でもそういった機会を創出したらいかがでしょうかというご意見いただきました。こちらについては、漁協の方とそのようなことが可能かどうかご相談をさせていただいたんですけども現在の体制では人員的に別の場所でやるのが難しいというお話でしたので、どのような方法でそういった部分の課題を解決するかということを検討していかないといけないかなというふうに思っています。

それから、1次生産者の方、資材高騰等で農業用ビニールハウスの更新ができず生産量が減少しているという現状があると、ビニール被覆材の補助などを検討してほしいというようなご意見がありまして、こちらについては、実行委員会というよりは、市の事業として実施を検討していきたいと思えます。

それから、農業の担い手後継者を増やすために、イチゴ狩りとかトマト狩りとかそういったものとか、そういったワークショップ的なところとか体験型の農業を開催している生産者を支援してはいかがでしょうかとご意見をいただきました。直近では農業水産課で3月に、イチゴの摘み取り農園を行っている生産者の方が市内にも何名かいらっしゃいますのでその情報を集約して、広報課のインスタグラムの方でご紹介をするというようなことを早速やらせていただいている

ところになりますので、今後もそのような機会を捉えて消費者ニーズに合った広報活動をしていきたいと考えています。

最後に漁業を身近に感じてもらうために漁船の体験乗船等開催したらいかがでしょうかというご意見をいただきました。実際の定置網の漁業というのは夜間で行われますし、危険を伴うものですからそれに同乗するのは難しいんですけども。実際先日5月に受け入れた片瀬小学校5年生の漁港見学の際には漁協やフィッシャーメンズプロジェクト、あと海さくらさんにご協力をいただいて、実際、漁船に乗って定置網を見学しに行くとか磯焼けに関する講義、タッチプールする、ビーチクリーンといった取り組みを行っています。それから今年度も夏休みの時期に湘南漁協さん江の島片瀬漁協さんにご協力いただいて、このような漁業体験イベントを開催していく予定がありますので、そのところで取り組みを進めていきたいなというふうに思っています。こちらは市の事業として行う予定になります。

流れで言いましたけども今年度の事業計画案になります。

立石委員長

ただいま、事務局から説明がありましたが、ご質問やご意見などがございましたらお願いします。

川井委員

はい、藤沢商工会議所の川井と申します。お世話になっております。本日初めて出席をさせていただきました。

私もですね藤沢市民でありながら住宅周辺には田んぼ・畑・果樹園に囲まれた中に住んでおりまして、子供の頃から見てきた身近な商品が今このようにクローズアップをされて活用されているということをお大変嬉しく思います。

商工会議所としての意見でございますが、本日お配りいただきましたこの食べ歩きマップにも出ている通り飲食店でも農業畜産業、漁業の商品ですね。利用したい店はたくさんあるかと思えます。ただ、コストの面、安定供給の面、いろんなことで課題があってもなかなか手を出せないのかなというところも感じております。

ただですね、やはり生産者が過剰に商品が出荷できる時、やはり通常市場に出す方もいらっしゃるでしょうし、消費者の方に売る方もいらっしゃるでしょうが、もしですね、過剰に生産高が上がったときにですね、少しでも企業に一時的でも飲食店などに供給できる仕組みがあればなんというふうにも感じる場所です。

このパイプ役、その利用者はどこに連絡をすればいいのか。直接店舗に連絡をして仕入れていくのか、またはどこか

センター的なものが機能するところがあって、そこに問い合わせをして商品を仕入ていくのか。などのですね、そういうものが構築されればいいななんていうふうに思ったところがございます。

いずれにいたしましても、この地産地消を推進していくという中ではですね、もちろん学校給食は大事でございますが、店舗の利用もですね、将来的な視野に入れてどのように流通させるかなども考える必要があるのかなというふうに感じたところがございます。

すぐには結論出ないと思いますが、参考にさせていただければと思います。以上でございます。

及川課長

今ご指摘いただきました、どのように流通させれば良いかというところで、やはりここが一番ネックになるところではございます。ただ、今ですね市役所の1階のところサンセットマルシェというのを行っておりまして、月水金と行ってるんですけども、そこに飲食店の方が買いに来ていただいたりですとか直売が終わった後に飲食店に納めに行くっていうような動きが出てきておりますので、サンセットマルシェの実行委員会があるんですけども、利用したいという飲食店さんがいらっしゃいましたら、そちらの実行委員会の方にお繋ぎすることができますので、商工会議所さんの方でもですねそういったご意見あるようでしたら、我々の方にご連絡いただければと思いますのでよろしく願いいたします。

加瀬委員

小学校校長会から来ております加瀬と申しますいつも給食では大変お世話になっております。

全然学校とは関係ないんですけども自分の趣味でランニングとかですね、トライアスロンとか大会に行きますと、例えば三浦のマラソン大会では三浦大根が参加賞として1人1本ずついただけたりですね、あと長良川のトライアスロンではお米をいただいたりということであるんですが、湘南藤沢市市民マラソンが川内優輝選手を呼んで、1月にハーフマラソンを第10回記念してというようなPRもあって、そんなところで野菜じゃないのかもしれないかもしれませんが、そんなところで藤沢産のものを参加賞とか、そういったことで配布するとかですね、そんなところももしかしたらお考えだったのかもしれないかもしれませんが、そんなこともできるのかなっていうふうにちょっと思った次第です。

及川課長

はい大変貴重なご意見をいただいたなと思っております。

1月開催ということなので、供給できるもの何かあるかなというところもございまして。もう少し時期を遅くなればですねトマトのPRにも繋がるかなとは思っているんですけども。その辺は農協さんともお話ししながら今後検討していければというふうに考えておりますのでよろしくお願いいたします。

松長委員

すいません1点質問させてください。オーガニックマルシェに関してなんですけれども、前年度実績から予算を10万円減らされているんですけど、今年度の目標としては11月23日の開催以降を毎月開催したいということで、これは前年度と同じ予算の中で、以降の開催もできる方法があるという見込みなのかちょっと確認させてください。

及川課長

予算的にはですね11月23日にやるものについてはガラポンですとか、そういったものの商品をご用意させていただいて、より多くの方に来ていただくという内容で、これまでも開催をさせていただいております。11月23日の開催の流れについては、今年度もそのような形でやろうと思ってるんですけども、それ以降については、いわゆる自走するような形で有機農家の方々がやりたいというご意見もありますので、我々としては会場の手配ですとか、そういったところは当然ご協力をさせていただくんですけども、予算を伴わない形でできるものと考えてこのような予算にしているところでございます。

立石委員長

他に事業計画案に関してはよろしいでしょうか。事務局からご提案いただきました事業計画案をご承認いただけるということでよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。令和6年度の実行委員会の方は、こちらの事業計画に基づいて実施いただきますようよろしくお願いいたします。

次に、「議題（3）その他」になりますが、全体をとおして何かございますでしょうか。

5月25日と26日に開催された「ふじさわ産業フェスタ」に実行委員会として出展しており、尾島委員にも当日、地産地消の普及啓発をしていただいておりますが、当日の様子などお聞かせいただけますか。

尾島委員

市民公募の尾島でございます。

農業水産課の皆様の方からこんなことやったらどうかみたいな話がありまして具現化した内容なんですけれども。いらっしゃった方はご存知だと思うんですけども。毎回野菜などが直販されるわけなんですけれども、その一角をいただいて、いろんな課題がある中で市民の方がどの程度地産地消に対して意識を持ってるのか、みたいなことの調査も兼ねて、どんなふうに皆さんが思ってるのかみたいなことを探りたいということもあって、こういった「みんなで育てる藤沢市の地産地消ツリー」というのを作ったんですね。

9つのキーワードを設定していただいて、このようなキーワードではあるんですけども。その説明がこちらになってるんです。例えばお父さんと子供がこう立ち寄りまして言ったときに、「どれが気になる？」というような声掛けをさせていただいて「私は健康かな」とか「私は食育かな」とかっていう思ったものに藤沢産シールをですね、複数OKみたいな形で貼っていただいたということをやりました。元々産業フェスタにいらっしゃる方はそういった学びとか、そういうことの意識もあって来られているからなんだろうが、皆さん読んでいただいて、アンテナを張っていただくというようなことをやりました。

2日間大体1時間で、10組ぐらいの方が2日間の10時から5時、10時から4時という中で、貼っていただいたと。2日間で用意された100個の缶バッジは全部なくなりました。

よく注目したいなと思うのは、「食の安全」とか「環境保全」に目が行くのは、もちろんなんですけども、「地域の活性化」とか、それから「旬と食文化の理解」というようなテーマに対してすごく皆さん意識があって、藤沢市の地産地消を推進していくには、そういう食の藤沢ブランディングとかまちづくりみたいな意識があって前に進むんだなっていうような、皆さん意識があられるということがすごく感じられました。

任意団体のボランティア団体の活動なんですけど、こういった「ブックで食と学びのコミュニティをつくる会」というのを立ち上げて、移動式ライブラリーなんですけれども。こういったものを持って安全安心のようなことに意識の高い方、例えば有機野菜を扱っているカフェとか発酵食品を扱っているカフェとか、そういったところを回って、こういう本を持って皆さんと対話するような活動を始めているんですけども。来ていただいた方にこういうものを渡し

ながら、「こんなコミュニティってやっていますよ」とか、「また今度ここでやりますから、インスタでチェックしてね」みたいな話もさせていただきながらお付き合いいただいたというようなことでございます。

立石委員長

はい、ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。全体を通してありますか。特にないようでしたら、以上をもちまして本日の議題はこれで全て終了しました。皆様のご協力により、会議を円滑に進行できましたお礼申し上げます。それでは進行は事務局にお返ししたいと思います。

3 閉 会

竹中補佐

立石委員長ありがとうございます。

それでは以上をもちまして、令和6年度第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会を閉会といたします。本日は長時間にわたりありがとうございます。次回の協議会は、年度末を予定しております。年度途中には必要に応じて部会を招集することといたします。その際はよろしく願いいたします。なお、本日事務局でご用意させていただきました、藤沢市地産地消推進計画冊子の方ですね。冊子の右上に改行のテプラが貼ってあるもの。白の冊子につきましてはまた次回使うようになるので、そのまま置いといていただければと思います。

以上となります本日はお忙しい中ご出席いただきまして慎重審議いただきましてありがとうございます。

ありがとうございます。
どうもありがとうございます。

終 了